

## 白人警官によるアフリカ系住民殺害問題 駐日米国臨時代理大使あて要請書

抗議行動に対し軍隊の出動を止めて下さい。警官に対する人権教育の徹底を求めます。平和的抗議行動を敵視せず、対話と連帯を。

6月5日 全国人権連常任幹事会



全水100周年を迎え、考えること②

## 世界史的意義をもつ 全国水平社創立100周年記念

全国地域人権運動総連合代表委員 丹波 正史

私の祖父母ぐらゐの世代が全国水平社を創立させた。一年数ヶ月で百周年を迎える。私自身、部落解放運動に参画して半世紀以上が経過した。いま思えば我が人生すべてが運動であった。それだけ情熱を傾ける有意義さがあった。運動への確信と誇りがこれを支えた。

百年の歴史の中で、わが国において「もっとも深刻にして重大な社会問題」としての部落問題が、広範な国民の努力のもとで解決に大きく前進し、その展望を自らに手にしたことである。まさに「集団運動」のなせる技である。ここにはさまざまな困難や苦勞があったが、これを乗り越え、人びとの人生をかけたたたかひがあった。

百年の歴史の中で、部落解放運動は当初から広範な国民との統一をめざす潮流と部落第一主義を掲げ差別糾弾を強調して身分闘争を重視する潮流との激しいたたかひが繰り広げられてきた。この戦後版は部落解放同盟の分裂、そして正常化連、全解連の流れと「解同」の流れである。もう半世紀に及び二つの流れが固定化している。

百年の歴史の中で、部落問題が解決した状態を具体的な指標で明らかにしたことである。さまざまな差別問題が存在する中で、こうした具体像を展開できたのは部落解放運動だけである。たしかに差別が死滅すれば解決と言えるが、これをどう推し量るかとすると至って非現実的なものとなる。この点で、格差是正論、社会的克服論、自立主体論、交流融合論の4つの指標は他の差別問題を検討する際にも有益な

理論的貢献となる。百年の歴史の中で、地域社会を基礎に人権と民主主義を柱にした地域住民運動の展開のもと、旧身分を理由にした差別の垣根を取り払い、わだかまりを克服しながら地域内外の連帯・融合を実現する運動であった。ここには地域、人権、融合という、いたって民主主義的な成熟社会の未来像を提示するものとなっている。百年の歴史の中で、社会問題としての部落問題を解決する主体形成を図

る歴史でもあった。たとえば、差別と貧困の問題で行政が果たす役割と限界を明確にしながら、最終的には住民と運動団体の責任で解決を図るといふ、自主的な解決主体の形成が差別の垣根を取り払う原動力と位置づけてきた。

最後に、どれだけ強調しても強調しすぎでない、一世紀という僅かな期間で解決を展望することを手にしたことは、歴史的にも世界的にも、前人未踏の挑戦をよりよく成功させたことである。

わが人生のなかで社会問題解決を手にしたことは、この上ない人生への意義を与えるものとなった。

百周年を迎えるに当たって、きびしい部落差別を乗り越え、この解決に努力されてきた人びとの血の滲むような努力に心から敬意を表したい。同対審査申は「すべての社会現象がそうであるように、人間社会の歴史的發展の一定の段階において発生し、成長し、消滅する歴史的現象にほかならない」と言っている。ここでは人間の意識にお

ける主体性、能動性の発揮が重要な位置を占めている。この意識における主体性・能動性こそ、部落解放運動そのものである。その意味で能動的な人間の意識の総和が部落解放運動と言える。

百年の歴史の中で、わが国において「もっとも深刻にして重大な社会問題」としての部落問題が、広範な国民の努力のもとで解決に大きく前進し、その展望を自らに手にしたことである。まさに「集団運動」のなせる技である。ここにはさまざまな困難や苦勞があったが、これを乗り越え、人びとの人生をかけたたたかひがあった。

百年の歴史の中で、部落問題が解決した状態を具体的な指標で明らかにしたことである。さまざまな差別問題が存在する中で、こうした具体像を展開できたのは部落解放運動だけである。たしかに差別が死滅すれば解決と言えるが、これをどう推し量るかとすると至って非現実的なものとなる。この点で、格差是正論、社会的克服論、自立主体論、交流融合論の4つの指標は他の差別問題を検討する際にも有益な

理論的貢献となる。百年の歴史の中で、地域社会を基礎に人権と民主主義を柱にした地域住民運動の展開のもと、旧身分を理由にした差別の垣根を取り払い、わだかまりを克服しながら地域内外の連帯・融合を実現する運動であった。ここには地域、人権、融合という、いたって民主主義的な成熟社会の未来像を提示するものとなっている。百年の歴史の中で、社会問題としての部落問題を解決する主体形成を図

る歴史でもあった。たとえば、差別と貧困の問題で行政が果たす役割と限界を明確にしながら、最終的には住民と運動団体の責任で解決を図るといふ、自主的な解決主体の形成が差別の垣根を取り払う原動力と位置づけてきた。

最後に、どれだけ強調しても強調しすぎでない、一世紀という僅かな期間で解決を展望することを手にしたことは、歴史的にも世界的にも、前人未踏の挑戦をよりよく成功させたことである。

わが人生のなかで社会問題解決を手にしたことは、この上ない人生への意義を与えるものとなった。

### 但馬で学習会

## 「人権条例」は、市民間に 分断・対立をつくる

八鹿高校事件の教訓を今に生かそう

兵庫



「人権条例」阻止の学習会

さる4月24日「同和行政終結をめざす但馬学習会」が行われました。同学習会は、当初、八鹿文化会館で行う予定のところ、コロナ問題で会場使

用禁止となり、急遽会場を変更し、規模を縮小して、豊岡市で開催しました。

学習会には、但馬地方の議員、元議員、元教員など13人が参加しました。

「学習会」の冒頭、竹浦昭男さん（元・養父市会議員）が発言。「養父市で、解同系の学者や研究者を講師に迎え、連続の『人権講座』が開催されている。近

畿大学特任教授の奥田均氏に至っては、部落差別の深刻さを強調して、養父市においても『人権条例』をつくるべきと講演している。このため私は市長に対して『条例を作ろうと思ってるのか』『解同条例はつくるべきではない』と指摘しておきました。3月2日には、人権連が養父市長に対して『条例』排除の申し入れを行っています。八鹿高校事件のあった但馬全域で『人権条例はつくるにはいけない』。今日は、その意思統一をするために学習会

を計画した」と挨拶しました。

この後、「今、部落問題はどうなっているのか」「部落差別」条例の制定を許さないために」と題して、兵庫人権連の前田武事務局長が報告しました。

討論では、「新年度から『解放学級』を終了することが明らかになつた」「八鹿高校事件後、解同推薦の職員7人を優先採用したことがあるが、定年を迎えている。昔は、市庁舎内に解同事務所を無償で貸していた

時期もあった」「解同利用は保守の再構成と見るべき」「人権連を再結集させる必要がある」「コロナ対策は人権問題。行政の対応はまったくっていない。この時期にも安倍首相は改憲を狙っている」「部落問題がどのようになっているのか、知るために参加した。解同の動きは、野党共闘を分断させる狙いがあるのか」などと様々な意見が出され、八鹿高校事件の教訓を今に生かそうと意思統一しました。